

15 プリシードプロシードモデルを基にした 齲蝕・歯肉炎予防プログラムに関する評価

○木暮ミカ¹, 本間和代², 木戸真紗美², 小野真奈美², 佐藤裕子²

¹明倫短期大学 歯科技工士学科, ²明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords: プリシードプロシードモデル, 学校歯科, 予防プログラム

はじめに

学校歯科保健活動はセルフ・ケアと定期的なプロフェッショナル・ケアで成立させることが理想である。我々は新潟市立真砂小学校の歯科口腔衛生指導についてプリシードプロシード・モデルを基に策定し、平成16年から毎年内容を修正しながら地域全体で取り組める予防支援型のヘルスプロモーションを展開し、一定の成果を上げてきている。そこで今回、平成17～21年の春季集団歯科健診の結果より、我々の実施した齲蝕・歯肉炎予防プログラムに対する評価を行ったので報告する。

対象および方法

①対象：新潟市立真砂小学校の全児童（児童数：平成17年376名、平成18年366名、平成19年369名、平成20年354名、平成21年425名）②期間：平成17～21年③方法：春季に行う全児童を対象とした集団歯科健診の結果より齲蝕所有者率および歯肉評価の平均値を算出した。なお統計手法はt検定（Welchの方法）を用いた。

結果および考察

平成21年までの過去5年間に於いて、一人平均齲蝕所有者率は真砂小ではいずれの年度においても新潟市平均値より低かった（図2）。歯肉に関する要精査・経過観察者率では、平成20年度が17.5%であったのに対し、平成21年度は5.8%と顕著な減少傾向がみられた（ $p=0.047$ ）。これは前年度の秋季歯科健診および歯科口腔衛生指導の際、歯肉予防に重点を置いて指導したことが影響したものと思われる（図3）。

まとめ

プリシードプロシード・モデルを用いて策定した予防プログラムは、齲蝕および歯肉炎の予防に有効であ

ることが示唆された。



図1 集団歯科健診風景

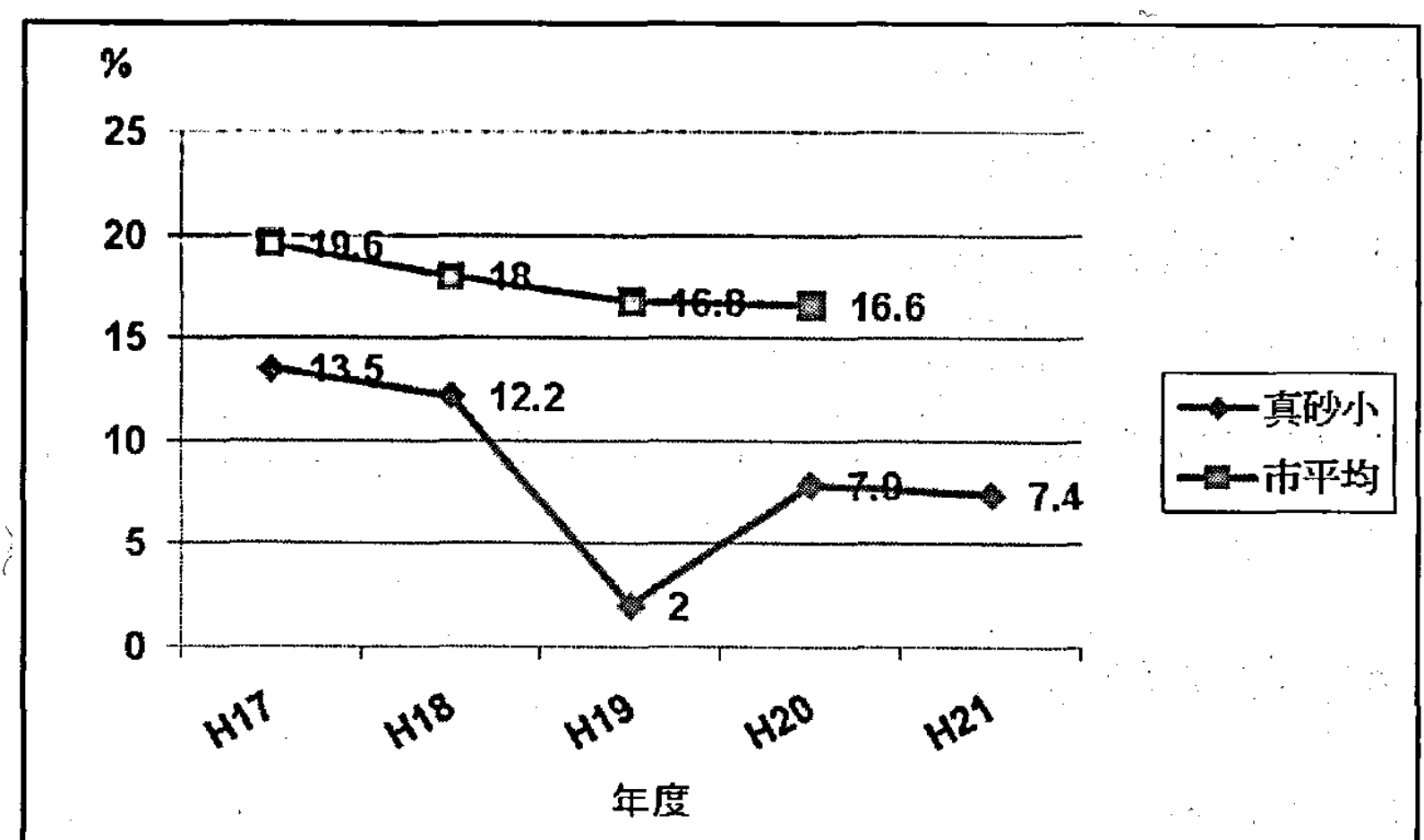


図2 年度別齲蝕所有者率

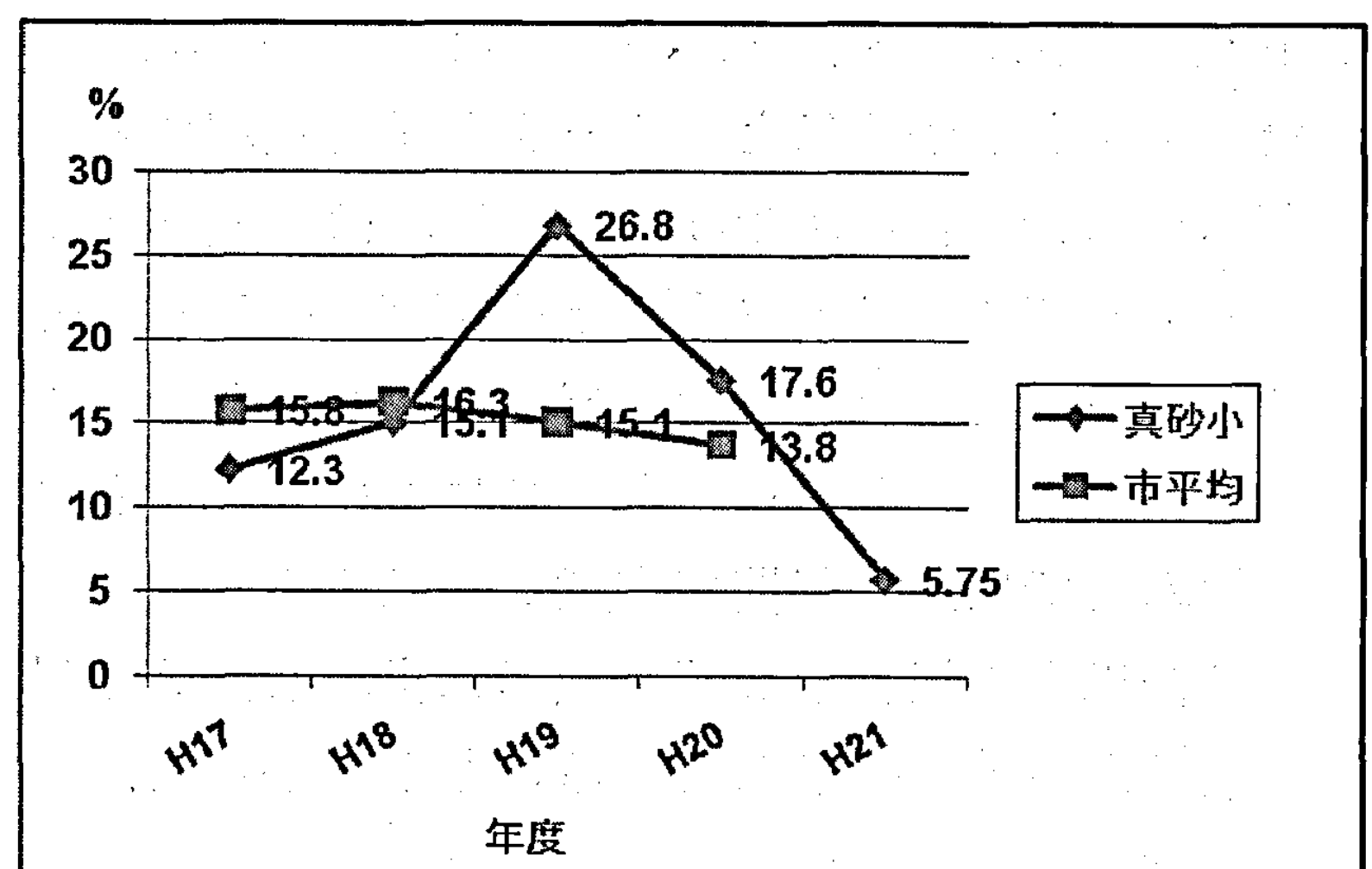


図3 年度別歯肉に関する要精査・経過観察者率